



平成 30 年 3 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社 O S G コーポレーション
代表者名 代表取締役社長 溝端 雅敏
(コード：6757 東証 J A S D A Q)
問合せ先 取締役管理本部長 奥村 正孝
(TEL. 06-6357-0101)

平成 30 年 1 月期 (連結・個別) の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 29 年 9 月 8 日の「平成 30 年 1 月期 第 2 四半期決算短信」において発表いたしました、平成 30 年 1 月期 (平成 29 年 2 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日) の業績予想値と実績値に差異が発生いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想値と実績値との差異 (平成 29 年 2 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	6,320	0	0	0	0 円 00 銭
実績値 (B)	5,611	△279	△263	△252	△51 円 07 銭
増減額 (B-A)	△708	△279	△263	△252	
増減率 (%)	△11.2	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 1 月期)	6,506	532	563	307	62 円 05 銭

2. 当期の個別業績予想値と実績値との差異 (平成 29 年 2 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,400	0	0	0	26 円 27 銭
実績値 (B)	3,910	△252	△237	△197	△39 円 94 銭
増減額 (B-A)	△489	△252	△237	△197	
増減率 (%)	△11.1	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 29 年 1 月期)	4,711	357	367	202	40 円 94 銭

3. 差異の理由

当連結会計年度における連結業績予想値と実績値の差異の理由は以下のとおりであります。

当期におきましては、2020年に創立50周年を迎えるにあたり、将来を見据えたダイナミックな人事異動を行いました。その結果、新体制が十分に機能しなかったことにより、業績に影響を与える結果となりました。

売上高につきましては、メンテナンス事業はほぼ計画どおりに推移いたしました。しかし、水関連機器事業のうち、特に「家庭用機器製品」におきましては、従来の販売方法など将来に向けた解体的見直しを行い、第1四半期において収益強化部門への人事異動に伴う戦力低下から、売上高が当初予想を下回り、第2四半期終了時に通期の売上予想を修正することとなりました。当初この新体制が第3四半期以降には機能し始め、業績に与える影響は一時的なものと想定していましたが、結果的に下期にもその影響が継続するという事になりました。第3四半期以降戦力の育成を図ると共に、創立50周年に向けた大型販売促進企画「プレミアム50」をスタートさせましたが、向こう3ヵ年での販売企画の獲得は増加しているものの、当期の実績に反映させることができず、売上高が減少し計画を下回る要因となりました。また、HOD（水宅配）事業では、当初予定していたプラント建設の時期が、プラント規模の大型化への変更に起因する確認申請書等の遅れが生じたため、来期にずれ込み計画を下回りました。

営業利益および経常利益につきましては、上記のように売上高が減少したことに伴い当初予想を下回りました。親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、特別損失として営業権の減損処理を10,307千円行った事により、252,737千円（前年同期は307,059千円の親会社株主に帰属する当期純利益）となりました。

以上の理由により、上記表のとおり業績予想値と実績値に差異が発生いたしました。

なお、個別業績予想につきましては、連結業績予想と実績値の差異に係る内容と同一のため、記載を省略いたします。

4. 配当予想について

当初の予定どおり、1株当たり年間30円を予定しております。

(注) 当資料に記載の業績予想等につきましては、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画、予測したものであります。実際の業績等は、今後の様々な条件、要素により当資料の見通しとは異なる結果となる可能性があります。

以 上